

# 産業教育常任委員会先進地視察研修報告書

1. 期 日 平成29年8月8日（火）、9日（水）
2. 視 察 先 大阪府交野市、守口市
3. 参 加 者 委員8名、随員1名 合計9名

## 【交野市】

- 人 口 76,435人（H28.10.1現在）
- 面 積 25.55km<sup>2</sup>
- 調査事項 「プログラミング教育の推進について」

### （1）概要

#### ① 担当課による説明（14：00～14：15）

交野市におけるプログラミング教育導入について担当課より説明。

2コマ分の授業時間数を使用しても児童の集中力は落ちることはなかった。

プログラミング言語を用いて高度ICT人材育成を目的としているのではなく、学習欲や態度の向上を目的としている。

#### ② 委託業者によるレクチャー（14：15～15：15）

実際に交野市で使用している教材を使ってプログラミングを体験。

2人1組になり、ロボット（教育版レゴ）を組み立て、ビジュアルアイコンを使ったソフトウェアでプログラミングを行った。

#### ③ 質疑応答（15：15～15：25）

事前に提出した質問事項を基に回答。

現場での反応を伺ったところ、おおむね好評で、2学期以降も引き続きお願いしたいとの回答が多かった。

### （2）各委員の所感

- ・日本の未来を担う子ども達が、道筋を立てて考える力や、物事を深く考える力、目標に向かい最後までやり抜く力を身につけることで、将来において自分の夢を実現し、世界に羽ばたき、活躍して欲しいとの願いのもと、実施されている“ロボットプログラミング”を実際に我々全議員一同体験させていただき、あらためて子ども達のICT教育の必修化・必要性について、身をもって実感できた価値ある研修であった。

- ・プログラミング的思考・知識・技能・判断力・表現力・学びに向かう力・人間性、およびコミュニケーション能力を養えることが、体験学習を通じて実感できた。
- ・コンピュータ社会である現代においては、プログラミングに親しみながら人間性を図る授業は非常に重要であると感じた。また、2020年にはプログラミングの授業が必須化となるわけだが、授業に興味を持ってもらう楽しい事業であると感じた。
- ・子ども達が学びに対する喜びや意欲を持つということは素晴らしい取り組みだと感じたのと同時に、高齢者にも健康維持のためにロボット組み立てなどのプログラミング講座を実施しても良いのではと思った。
- ・これからの社会を生きる子ども達は、情報を単に受け止めるだけでなく、整理・分析し、まとめ・表現し、他の者と協働で思考を深めたりして、物事を多面的に見定め、情報モラルを身につけ、情報社会に主体的に参画して、創造していく能力が期待されますので、本市においても調査・研究が急務である。
- ・今後、「プログラミング教育」が必須化されるにあたり、学校とICTメーカー企業との協力・連携体制の構築は必要であり、このメーカー連携が課題となってくるのではないかと思う。
- ・我々もロボットを実際に使用してプログラミング教育の一端を学びましたが、子ども達が互いに教え、助け合い、多くの対話が生まれ、コミュニケーションが活性化されるのではないかと思います。この教育を進めるにあたっては、これを指導する教員の育成が大切だと思います。早い段階での本市の取り組みを期待したいと思います。
- ・①交野市からの説明の中で、このプログラミング教育は、「単にプログラミングを学ぶだけではなく、数人のグループで活動するため、それぞれ違った考えや意見を話し合いながらどう解決して進めていくかも、大切な教育の一つと考えている」との言葉に感銘を受けた。

- ②実際に教材を使いながら、車のような形をした模型を組み立てることと、実際に動かすところまで体験させて頂き、その楽しさを学ぶことができた。
- ③この委託契約の中の、予算的なことを質問したところ、公表は遠慮するとの回答であったため、どれくらいの費用がかかっているかを知ることができなかったが、こういう企業があることが羨ましく思った。
- ④プログラボが交野市と業務委託契約を締結して、市内すべての小中学校で支援。具体的には、プログラボの講師が交野市内の小学校10校と中学校4校に赴き、子どもたちを指導している。また、教職員が児童・生徒に対してプログラミング教育を行えるよう、教職員に対する「プログラミング教育研修」も行っている。現時点で、小学校と中学校の計9年間を見通したプログラミング教育のカリキュラム作成を支援していることは、素晴らしいことであり、感銘を受けた。
- ⑤本市は、2020年度からのプログラミング教育の必修化をどのように考え、準備しているのかと感じた。

## 【守口市】

- 人 口 143,042人（H28.10.1現在）
- 面 積 12.71km<sup>2</sup>
- 調査事項 「テレワークオフィスについて」

### （1）概要

#### ① 担当部長による守口市の概要説明（9時45分～10時5分）

危機的な財政状況のもと、政策的な事業に取り組めていなかったが、財政健全化にも見通しがつき、地域振興の観点からも国の補助事業を利用し今年度から実施している。

同じく今年度から実施している幼児教育・保育の無償化とあわせて、子育て世代への支援策の一つととらえている。

#### ② 担当課によるテレワークオフィスの説明（10時5分～10時40分）

現在、桜町オフィスで83人、大宮オフィスで60人の利用実績がある。

3か所目を設置するかは今後の検討課題。

なお、現在は無料で利用できるが、今後（10月1日から）有料化する方針。

#### ③ 議場見学および現地見学（10時40分～11時25分）

市役所から徒歩6分にある桜町オフィスを見学。

こちらは月契約で市内の企業が利用している。

受付はもう一つの大宮オフィスに常駐している職員とテレビカメラで連動しており、事前に登録してある企業が専用のカギを使って利用している。

なお、議場には車いす用のスロープが設置してあるなどバリアフリー対応がなされてあった。

### （2）各委員の所感

- ・企業の取り組み（若い世代が首都圏に通勤せずに仕事ができること）や、個人の起業を後押しするうえでも今後、必要になると感じた。
- ・テレワークオフィスは地元企業の活性化や、新規事業の展開を模索している個人事業者にあっては非常に魅力的な施設であるとともに、子育てを行っている世代・ワーキングマザーなどの市民にとっては、働き方の見直しを図ることができる施設でもある。本市においても安く事務所を借りられるほか、初期の設備投資費用を節約できることも考えられ、参考の余地がある事業ではないかと感じた。

- ・本市においても育児・介護・仕事の両立支援として、家族に近い場所での勤務、業務のICT化による生産性の向上、企業側のメリットは打ち合わせ場所としての利用、Web会議、社員のワーキングスペースとしても活用できるだろう。ただし、人口密度などを考えると、本市では課題も多く出てくるかと思うが、近年はICT化が進んでいるので本事業の取り組みも重要かと感じる。
- ・家族に近い場所での勤務は有効であり、視察先は業務IT化社会の草分け的存在であります。今後の働き方改革の取り組み、企業と市民起業家への支援、フリーランスの活用により、人口減少の歯止めになる可能性を秘めていると思います。
- ・視察先は育児や介護と、仕事の両立を支援し、多様な働き方（ワーク・ライフ・バランス）の実現を支援し、若者世代の定住促進を進めている。大阪市という大都市近郊の住宅地域の発想で展開した「守口市テレワークオフィス」。将来このような働き方が主流となるかもしれないことを考えると、とても有意義な研修であった。
- ・本市中心部も空き店舗が目立ち、この対策には有効だと考えるが、利用する企業、フリーランサーが本市にどれくらいいるのか。また、利用対象者を市内に事業所がある企業、市内在住のフリーランサーと絞っているため、今の本市の現状では、利用者確保は難しいと思うため、これについての調査が必要と考える。
- ・①29年3月より事業を開始したばかりのため、延べ約160名の利用実績。  
これからの働き方改革の先進事例を学ぶことができ、大変参考になった。
- ②主に若い世代に対して、都内まで通勤しなくても仕事ができる環境整備を取り組む企業への後押しになると感じた。また、個人が起業する場合は、打ち合わせ場所や事務所的な活用もできるなどの必要性を感じた。
- ③今後は、更に必要性は高まるのではないかと感じたが、本市において、その需要がどの程度見込めるかは、検証する必要があると思う。